

# 小樽別院だより

## 報恩講にあう喜び

輪 番 教 重 文 雄

本年もはや「報恩講」をお迎えいたすこととなりました。宗祖親鸞聖人のお流れを汲む私たちにとって、身の引き締まる思いがいたします。年ごとにお迎える報恩講は、い

くど合出つてもなつかしい行事でもあります。親鸞さまのご苦勞を偲ぶことですが、それと共にご恩に生かされる意味を味わうのも報恩講であります。七百年という長い歳月を行いつづけて今「報恩」と名のる行事が行われていることは意味の深いことです。聖人のご一生については、いくたびくりかえし聞いても味わいは尽き

ません。ご幼名を松若丸とも呼び、八歳までに両親に死に別れ、お得度は桜の花も散るころでしたが、それから後は、寒い吹雪の中から聖人のお姿が浮んできます。九歳で出家、比叡山で二十年の間ご修行になりましたが、凡夫の救われる道を求めて山を下り、よき師法然上人に合われて、阿弥陀如来の本願を信じ念仏をよく生活に入られました。しかし七年後の三十五歳の時には、時の権力の圧迫で念仏は禁止せられ、聖人は遠く越後の国府へ流罪の身となられねばなりま

発行所  
本願寺小樽別院  
小樽市若松1丁目4番17号  
〒047 TEL0134-22-0744  
編集・発行人  
教 重 文 雄

”小樽に念仏の友垣の輪をひろめよう”

せんでした。聖人はこれも師教のご恩であると喜び受けとめていられます。越後で数カ年を過ごされて、関東へ向かわれました。聖人四十二歳のころ、恵信尼さまが九つお若く、信蓮房というお子さまが四つときいております。

関東での聖人は、ただ如来の本願を「みずから信じ、人を教えて信ぜしむる」ことよりありませんでした。これこそが如来のご恩に報謝することになるのであり、以後二十年関東でのご苦勞がつづきます。この聖人のご苦勞によって、聖人と共に如来の本願を信じ念仏申す人びとが生れてきました。

その頃の関東の人たちの生き方は祈禱や呪術に明けくれ、その時その時の気やすめにこそなれ、人間が立つ確固たる依りどころは無いのであります。これは単なる昔話と考えず現代の問題として考えたいことです。聖人は六十歳をすぎたころ関東から京都へ帰ってこられ住みつかれたのが「五条西洞院あたり」と伝えられています。聖人八十三歳の年の瀬に火事にあわれ、五条西洞院の寓居を焼け出され「三条富小路」の善法坊に移られました。ここは舎弟の尋有僧都です。ここに安住の地を得て晩年を過ごされることになりました。

如来大悲の恩徳は身を粉にしても報すべし 師主知識の恩徳も骨をくだきても謝すべし

との恩徳にみられるように仏祖の恩徳を讃嘆され日々夜々が感謝感激の晩年をおくられたことです。そしていよいよ臨終の日がせまってきたからは、「御伝鈔」に、「聖人、弘長二歳壬戌仲冬下旬の候より、いささか不例の氣まします。それよりこのかた口に世事をまじえず、ただ仏恩の深きことをのぶ。声に余言のあらわさず、もっぱら称名たゆることなし。しこうして同じき第八日午時、頭北面西右脇に臥し給いて、ついに念仏のいきたえおわんぬ。時に彌陀九句に満ちたもう。」とあります。聖人のご臨終には、終始身のまわりのお世話をせられた覚信尼を始め、御三男の益方殿、関東からお同行代表としては、下野高田の顕智と遠江池田の専信も来ており、在京の門弟たちもあつまって、しめやかなお葬儀がとり行われました。このように聖人のご生涯を偲び、聖人の仰がれたご本願、念仏のみ教えをより一層身に付けさせていたただかねばなりません。それが宗祖聖人のご苦勞に報いていく道でもあり、私くしの真に生き抜く道でもあります。

聖人のご一生の結論は「受けがたい人間に生れ、真実の法にであり、法を聞くことができて、本当によかった。ひとえに仏の恩である」という感謝の言葉であったといえましょう。(報恩講の歌)

和歌の浦曲の片男波の

寄かけよせかけ、かえる如く 一人居ても、喜びなば 二人と思え二にして、喜ぶおりは 三人なるぞ、その一人こそ親鸞なれ

”念仏の声を世界に子や孫に、”



宗祖親鸞聖人尊像(ご苦勞の旅姿)

# 人生を語る

## 私の歩みと展望

### 信仰心について 現在の心境

小樽別院総代 高山隆行



信仰心について私はこれまで浅く考へて居りましたが今度の新企画で小樽別院だよりが出来思いが新しく変って参りました私の今日あるは親祖先の長年のご苦労とご慈愛によること強く感じます郷里の農村の次男として生まれ日頃の父母の労働が身に凍みます幸にも当時の高等小学校を卒業三ヶ年毎毎日一里の通学往復がこの私の健康に役立つて居ります。

信仰心の強い方は行いが正しく信用度が高いです社会的にも奉仕の理念が強いのです人には良心があります考えが深くなるほど社会に尽くすことが宗祖聖人の教えと覚りを開き素晴らしい人生を送ることが出来ます然し人生は浮世です波の上の生活と同様です。高く浮くときには大事をとり低く沈むときは忍ぶことが何より必要です。又自ら行いを堂々として人に接するならば融和親睦、そして、自然に南無阿弥陀仏の名号称えて安心立命が人生最高の幸となります。これを将来子孫に繋ることと信じて居ります。

# 「大悲先倦常照我」

小樽別院総代 毛利悌雄



正信念仏偈の一節である事は衆知の通りである。私は、この一節を口にするにより心のやすらかさを覚える。「性善説」「性悪説」矛盾していると思われれる二つの説を、さほどの抵抗を感じることなしに受け入れることが出来る。その故は、「生きる」と云うことのきびしさを身にしみて感じているからである。この厳しさを乗り越えるためには、最小限度の「社会悪」を許して貰わねばならない。勿論「善悪」と云っても、先哲の説く哲学的な解釈を意味するわけではない、極く一般的なものとしてである。厳しい人生の苦悩を耐えて行く為には大慈大悲を与えて下さるみ仏のみ手にする外はないと思われる。これからの日々を心の柔き、豊かさを抱きつつ、残された人生を終えようと思っている。

# 私の人生

別院仏婦副会長 中村トキ



故郷帯広市で明治四十五年五月生れ大正十二年八月父母と榊太に行き同十四年四月小学校卒業後家業の手伝い昭和六年十一月結婚しましたが満洲事変の年で不景気で商売「建具製造業」が思わしくなく建具を納めた先が倒産し夜逃して私共も多大な損害受け三年位借金を返済するのに苦労しましたが一生懸命

# 「生かされて生きる」

別院仏社役員 世話人 風間 毅



「弘誓の強縁にあう」云々と、祖師親鸞聖人の御言葉があります。私は御言葉どうり、御縁を慶んでおります。私は別院の前に住んで居ながら、寺参りと云へば、命日や盆参の時に、納骨堂に行つて手を合わせる事が、寺参りと思つて居りました。本当に今思へば、はずかしい事です。私は、或日ふと仏教とは真宗とは、門信徒でありながら、何もわからないので、聖典を拝読し、又朝参りするように、説教を御聞かせいただき、自分が目覚させられ自己発見でした。毎朝の説教は心につきささる様うな、真剣勝負です。御教の尊き、有難きに感謝せずには居られない様うになりました。今後毎日を大事に、仏恩感謝の御教に生かされる自分を大切に、朝参をする所存です。よろしく御指導御願います。

# ◆説教所紹介

若竹説教所創立記録 彰心会 発会

彰心会 山本卯一郎

当説教所は大正十年各方面の御門徒の御先代の御努力によって創立されて以来六十年の年月がたちました初代の主任様は銭函町の光超寺先代河崎義夫師でした。当時二十一日講が毎月開講され本間勝太郎様川田直吉様方が代表となりお世話をして下さいました。彰心会は昭和七年の二月三日当時の吉川主任の元に仏教青年彰心会として発会致しました。発会初期の会費は月額式拾銭でしたので時代の流れを感じさせられます。昭和二十七年に二十一日講は講員の都合で解散致しましたので彰心会も仏教青年の名を取りまして現在にいたつて居ります。初代の会長は伊藤吉兵衛様がなり五十年後の現会長は野村寛吾様で五十二名の会員が毎月七日には常例のお詣りしております。昭和二十八年四月には市内で最初の若竹保育所が設立されました。昨年九月に斉藤義隆主任在動中説教所創立六十周年彰心会五十年保育発会所開所三十周年の記念法要が五十五年報恩講法要と共に盛大に執行されました。今後は村上隆昌主任と共に説教所や彰心会の発展に会員一同で御奉謝させて頂く所存で有ります。

葬儀御礼(父、教重無外、七十三歳) このたび父の急逝に伴なう葬儀には、別院総代を始め婦人会、仏壯、仏青、講社、幼稚園、保育園、双葉女子学園、市内寺院、並に、ご門徒職員各位から身に余る暖かい、ご香資、ご厚情を賜り、只々感謝のほどであります。茲に紙上をかり厚く御礼申し上げます。

昭和五十六年九月五日 合掌 小樽別院輪番 教重文雄

## 事務機器・製図機械・スチール家具

# 株式会社 北光堂

### 小樽市花園4-1-2 TEL(代)32-1322





秋こぬと目にはさやかに  
見えねども  
風の音にぞ  
おどろかれぬる  
(古今和歌集)

### あなたとの対話

こころが聞きたい

## 豊かな人生をめざして

担当 教重文雄

### ◆問、セックスについて、浄土真宗ではどう教えますか。(小樽在住青年)

答、セックスという言葉は、一般に不浄なものという印象が強いのですが、性欲自体は食欲と同じように人間の自然にそなわった本能的なものとして受けとめるべきでしょう。衝動的な性愛は、ややもすると自分だけでなく、他人をも不幸におとし入れるので、お釈迦さまは「五戒」のなかに「不邪淫戒」を定めて、いましめられています。

浄土真宗として、ゆがめられた性についてはこれを是とすることはありません。問題は、性の欲望のなかで生きていかなければならない私に気づかされていただくことです。つねに恥じる心を機縁として、まことの民法を聞かせていただくことです。民法は、「(民法)」「世の中の真理であり」「世の中の真実です」。永遠に変わらぬ真理、真実に目覚させていただくことです。そこから、たしなみの生活、反省の生活への方向転換がなされ、人間の正しい道が開かれてくるのではないのでしょうか。

### 日曜仏教講座

—現代をさわやかに生きよう—  
十月第一・第三日曜午前九時三十分

## 別院づゝ門徒えのお知らせ

われております。

- 一、彼岸法要ご案内  
イ、九月二十日から二十六日まで  
七日間修行  
ロ、彼岸布教  
滝川市栄町、広徳寺住職  
関藤龍静 師
- 二、宗祖親鸞聖人報恩講修行  
(1) 期日、十月十二日(月)初速夜法要  
から十五日(金)日中ご満座まで  
(2) 法要次第  
● 晨朝……午前六時(十六日は六時三十分)  
● 日中……晨朝に引きつづき、十六日は午後一時ご満座  
● 速夜……午後一時三十分  
● 初夜……午後六時三十分  
(十三日、十五日)
- (三) 報恩講布教  
本願寺布教使、三明唯信師、  
島根県温泉津町、照善坊、  
別院院所属団体、講社合同お速夜  
法要参拝……十二日午後一時半  
(五) 小樽幼稚園  
若竹保育園・合同参拝……十三日  
新光保育園……午前十時半  
(六) お日中お速夜法要参拝……  
(七) 御伝鈔拝読……十三日 午後七時  
(八) 双葉女子高等学校参拝(音楽法要)  
要) 十五日午前九時  
(九) 御俗姓拝読……十六日  
(十) お齋……十六日  
午前十時～正午まで  
※お願い、十二日から十七日まで  
例年通り月忌参りを休ませていただきますのでご了承下さい。
- 三、恒例の行事案内  
(一) 総参拝日……毎月一日と十六日  
六時三十分より。  
(二) 朝参り百日参拝実施中  
どなたでもお気軽にお参りを……  
(三) 定例法座  
毎月六日から十六日まで、ご本山直属の布教使による法活が行
- (四) 仏教壮年会例会、毎月六日夜  
(五) 仏教婦人会例会、毎月二十七日  
(六) 仏教青年会例会、毎週土曜日  
(七) アソカ会例会、毎月十日夜  
(八) 各説教所  
● 緑説教所、「無量講」毎月八日夜  
● 奥沢説教所、毎月五日、十日、  
● 若竹説教所、毎月七日、夜  
● 新光説教所、毎月十三日夜  
「法友会」  
以上

### 後記

● 恒例の盆の行事も、予定していた手伝の僧が欠勤して多忙を極めたが外参り内参り(納骨堂)とも平穩に終了をみた。特に仏位各位には終始、加勢をいただき感謝に絶えない。

● 九月は敬老の月間、百歳以上の老人が千人を突破し、世界一の長寿国になった。平均寿命は、男性が七十三・三二歳、女性七十八・八三歳でアイスランドなどと並んで世界トップクラスとなっている。喜ばしい限りだ、道内でも五十三人、男性十二人に對し女性四十一人で女性上位である。長寿の秘けつ?……野菜を食べて……規則正しい生活……よくよせずと報道されているが、心身の調和が大切なことは申すまでもない。

● またまた金融機関で起った女性の犯罪、国際事件にまでなったが、報道では、「まじめで、仕事熱心のベテラン行員、男の甘言にくずれる弱い女のイメージ」と伝えてある。果してそうであるか、批判は簡単だが、もっと深い側面を感じさせられる。

● いよいよ報恩講の準備に入った、報恩講は年に一度の私の歩みの総決算、来年の報恩講は度し難い、共に手をとりあって充実した報恩講を勤めよう、ご加勢のほどを願う。

## 生花を使って花祭壇

=10万円から施工に応じます=

## (株) 札樽葬祭

小樽市若松1-9-10 ☎(34)0444

## (有) 花の店 カトレア

小樽市奥沢1-17-3 ☎(23)6487



取締役社長 高橋政美